

【責任】

看護学科の助教として勤務しており、専門は母性看護学である。母性看護学は女性のライフサイクル各期を支える看護、その家族への看護について学ぶ科目であり、現在はその中の産褥期の講義や演習、性教育の講義を担当している。また、母性看護学実習での指導も担当している。授業以外の役割として、実習委員会・卒業研究の企画運営チームなどの業務を担っている。

【理念】

科目の役割、授業の目的などを十分把握した上で、大人の学修者である学生を常に尊重し、学生と共に授業や教育を作ることを大切にしたいと考える。学生は、同世代や親しい人間関係以外の方と交流したり、関係を構築していく経験が乏しいため、授業や実習を中心とし、学生生活全般を通してそれらを経験させるように、対象者の気持ちに寄り添い、深く考察できる看護師を育成したいと考える。

また、学生の教育の質を上げるためには、自分に知識・技術・態度、またここでまさに考察しているような理念を自分の中に明確に持つことが必要であると考え。よって、学生の個別性や成長過程を尊重した教育をするために、必要な行動を考え、自ら行動にうつし、学修し続けるということが理念となる。

【方針・方法】

方針1 「変化を恐れず学生の意見を取り入れる教育を大切にする」

方法

- (1) 授業の際には毎回質問や意見をGoogleフォームに入力させ、それらにできるだけ早く返答し、また次の授業や次年度に意見を取り入れる。可能な講義についてはGoogleフォームへの入力授業開始時から可能とし、授業時間内に必要なものをピックアップし、リアルタイムで口頭で返答するようにする。
- (2) 学生から率直な意見が貰えるよう、普段から学生を尊敬・尊重し、人間関係を構築することを心がける。複数の選択肢の提供、学生が話しやすい環境の準備、タイミングを逃さない指導場面を工夫している。

(3) 学生が最大限に学びを得られるチャンスである実習の調整や指導には重きを置き、インストラクターと協力して教育を行う。

方針2「学生が様々な年齢や立場の方に関心を寄せられるようになり、看護師の役割を考えられるように教育する」

方法

- (1) 授業の中では、自分自身の経験を語ることにより、看護師や対象者の立場を学生に想像させ、印象に残る、また臨床場面で役に立つ教育を大切にする。看護師の仕事の魅力を語る場면을授業以外でも個々の学生に行うよう意識をする。
- (2) 実習では出来る限り多くの経験をできることを常に意識し、臨床との調整を行う。
- (3) 授業や実習を通して、何を感じ、そこから何を学んでいるかを学生自身に記載させたり、口頭で話させることを意識的に行う。また、他者の立場に立つ場면을想起させ、その際の気持ちを率直に表出させるようにする。

【評価・成果】

- ZOOMでのグループワークを導入した。事前課題を課し、毎回違うメンバーと課題について共有し、グループワークを行うスタイルとした。2-3グループに1名、インストラクターまたは教員を配置したこと、毎回の授業ごとに課題の解説を入れるようにし、学生は緊張感を持ちながらも毎回疑問が解決されたと評価していた。実習においても、学内の学びを活かすことができおり、良い学びに繋がっている。
- 新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、実習の形態を変更せざるを得ない状況が続いたが、2022年度には臨床での実習時間をコロナ以前と同様に担保できた。これまでの実習施設との信頼関係の構築により受け入れていただけた現状があると考え。また、新しい実習形態となり実習施設と調整を測ること、学生に丁寧にオリエンテーションを行うこと、実習施設と協力した臨機応変な対応により、一定の教育の質が確保でき、学生の満足度及び実習成果が高い現状となっている。
- 卒業を間近に控えた学生や卒業生より、印象に残る授業であった、人生において役立つ授業であった、一番学びの多い実習であった、助産師を志すきっかけとなった等の感想が得られており、一部の学生からではあるが、成果と捉えている。

【目標】

- 長期目標：看護師という仕事に学生が価値を見出す。卒業生が看護師として活躍していることを臨床現場で確認できる。
- 長期目標：学生が、自分の生き方について考え、自分自身に価値を見出せるよう教育を行う。卒業時にこの大学で学んでよかったと言える学生が増加する。
- 短期目標：参加型の授業展開において、新しい手法を身につける。（2024年3月）